

| | | | | | | |
|----|----|-----------|----|----|----|----------|
| 教科 | 科目 | 単位数 | 学年 | 学科 | 区分 | 使用教科書 |
| 公民 | 倫理 | 2単位(70時間) | 3 | 全科 | 必修 | 東京書籍「倫理」 |

1. 学習の到達目標

先哲の基本的な考え方の理解を手掛かりとして、青年期における自己形成の課題を含めた人間の在り方生き方、人間の尊厳等について、主体的に考え、日常生活で生じる諸問題の解決をはかる能力や態度を養う。

2. 学習の計画

| | 単元名 | 学習項目 | 学習内容 | 時数 |
|----|---|--|---|--------|
| 4月 | 第1章 青年期の課題と自己形成 | ○わたしたちの「いま」 1 青年期の意義 ①現代の青年 ②青年期の位置づけ ③青年期の特徴 | ○現代社会の諸問題や、日本の現状を考えると、生徒が生活している「いま」の状況を把握し、倫理学習の導入とします。 ○人生における青年期の位置づけ、特徴などについて考え、青年期特有の課題であるモラトリアムとしての時期、アイデンティティの確立、自己実現の追求、自己理解の方法などについて学んでいきます。 | 3 |
| 5月 | | 2 青年期の課題と生き方 ①主体性の確立 ②自己理解 ③幸福と生きがい | | 3 |
| 6月 | 第2章 人間としての自覚 | 1 人間とは何か ①人間と哲学 2 ギリシャの思想 ①自然哲学とソフィスト ②ソクラテス ③プラトン ④アリストテレス ⑤ヘレニズム時代の思想 | ○人間の定義について考えた上で、パスカルの言葉を手掛かりに、哲学することや、先人の思想を学ぶ意義について理解します。 ○ギリシャ思想は、自然哲学、ソクラテス・プラトン・アリストテレスの生涯と思想、中心に理解します。また、その思想がどのように発展したのかを学習します。 | 2 5 |
| 7月 | | 3 キリスト教 ①旧約聖書の倫理 ②イエスの教え ③キリスト教の展開 | ○世界の三大宗教であるキリスト教、イスラーム、仏教の基本的な考え方だけでなく、歴史的な成立過程や、発展、拡大の経緯についても理解します。 | 4 |
| 7月 | | 4 イスラーム ①ムハンマドとイスラームの教え ②イスラームの展開 | ○一神教であるキリスト教とイスラームの共通点や相違点について考えます。 | 4 |
| 7月 | 5 仏教 ①古代インドの思想 ②ブッダの思想 ③仏教の展開 | ○「慈悲」と「アガペー」の違いに着目しながら両者を比較考察します。 | 4 | |
| 7月 | 6 中国の思想 ①孔子と儒家の思想 ②儒家思想の展開 ③老荘思想 | ○儒家、老荘思想を中心に学習し、その後の中国思想の展開についても理解を深めます。 | 4 | |

| | | | | |
|---------|-----------------------|--|--|---|
| 9 月 | 第3章 国際社会に生きる日本人の自覚 | 1 日本人の精神風土 ①日本人の宗教観 ②日本人の倫理観 | ○古代日本人のものの考え方を、精神風土との関係でとらえるとともに、宗教観・倫理観などについて考えます。 | 2 |
| | | 2 仏教と日本人の思想形成 ①仏教の受容 ②仏教の日本的展開 ③仏教と日本文化 | ○外来思想である仏教の受容や日本的仏教の特色、仏教と日本人の思想形成との関わり、無常観・美意識・武士道などにおける特色をとらえます。 ○儒教の日本的展開について、日本の朱子学や陽明学、古学、古文辞学を中心に学習します。 | 4 |
| 10 月 | | 3 儒教と日本人の思想形成 ①儒教の受容 ②儒教の日本的展開 | ○国学の特色を理解して、本居宣長の思想を中心に学習します。 | 3 |
| | | 4 国学の思想 ①国学の形成と展開 | ○近世日本の思想について、町人の思想、農民の思想、幕末の思想、西洋文化との接触などを学習します。 | 3 |
| 11 月 | | 5 庶民の思想 ①庶民の思想の発展 ②幕末の思想 | ○西洋文化との接触後、啓蒙思想、自由民権思想、国家意識、キリスト教思想などと日本人の思想形成について理解します。 | 3 |
| | | 6 西洋思想と日本人の近代化 ①近代への啓蒙 ②国民道徳とキリスト教 ③近代的な自己の求め ④社会思想の展開 ⑤近代日本の創造的な思想 | ○近代の代表的な作家や文学者の思想を通して、日本人が自己の内面的世界についてどのように思索したか、学習します。 ○近代日本の社会改革の思想や西洋思想を主体的に摂取して形成された独創的な思想について理解します。 | 5 |
| | | 7 国際社会に生きる日本人の自覚 ①戦後思想の動向 ②グローバル化と日本人 | ○主体的に生きる人間として国際社会における役割と責任を果たす日本人としての自覚を形成します。 ○日本思想の中の間人観について考察します。 | 2 |
| 12 月 | 第4章 現代を生きる人間の倫理 | 1 人間の尊厳の根拠を求めて ①人間尊重へ向けて ②理性への信頼と懐疑 ③経験論と合理論の対話 | ○西洋の間人観と人間尊重の精神について、ルネサンス、宗教改革、合理的精神（ベーコンとデカルト）、モラリスト（モンテーニュとパスカル）、経験論と合理論の展開を学習します。 | 3 |
| | | 2 民主社会と自由を求めて ①社会契約説 ②人格の尊厳－カント ③ヘーゲルの人倫の思想 | ○近代的な個人の自覚から、人間のあり方と社会との関係について、社会契約説（ホッブズ、ロック、ルソー）、カント、ヘーゲルの思想を理解して、考えを深めます。 | 4 |
| | | 3 社会変革の倫理を求めて ①功利主義 ②社会主義思想 | ○近代資本主義社会の問題とその克服について、功利主義、社会主義の思想を理解して、考えを深めます。 | 4 |

| | | | | |
|--|--|--------------|--|-----|
| | | 7 国際平和と人類の福祉 | <p>○これまでの学習を踏まえた上で、現代世界における諸課題の倫理的問題について認識し、展望を探ります。</p> <p>○物質的に豊かな社会の背後にある問題をはじめとして、本当の豊かさとは何かを考え、未来の福祉と世界の平和を構想しようとする意識を高めます。</p> | (2) |
|--|--|--------------|--|-----|

4 評価の方法

(1) 評価の観点

評価は学習で身に付ける力を次の四つの観点から把握するようにします。

| | |
|----------|---|
| 関心・意欲・態度 | <p>○人間尊重の精神と生命に対する畏敬の念を高めており、人格形成や自己形成の確立に努める実践的意欲を持っている。</p> <p>○倫理的な諸課題についての探究的な態度を身につけ、人間としての在り方生き方への自覚を深めようとしている。</p> |
| 思考・判断・表現 | <p>○他者と共に生きる自己の確立について広く課題を発見し、人間の存在や価値、現代の倫理課題などについて多面的・多角的に探究しようとしている。</p> <p>○良識ある公民としての広い視野に立つことで、主体的かつ公正な判断をしている。</p> <p>○課題についての考察や判断の過程や結果を、様々な方法で論理的に表現している。また、それについての的確に反省し、自己評価することができる。</p> |
| 資料活用の技能 | <p>○自己形成や人間としての在り方生き方、現代の倫理的課題に関して様々な資料を収集、整理し、情報を主体的に選択している。</p> <p>○諸資料を自己形成のために主体的に活用し、追究した内容などを様々な方法で適切に表現している。また、それについての的確に反省し、自己評価することができる。</p> |
| 知識・理解 | <p>○青年期における自己形成や人間としての在り方生き方、現代の倫理的課題などに関した基本的な事柄を他者と共に生きる自己の確立の課題として理解している。</p> <p>○さらに、自己の人格形成や課題解決のために生かす知識を身に付けている。</p> |

(2) 評価の時期と方法

ア 年5回の定期考査では、ペーパーテストによって出題範囲における習得の状況の評価します。

イ 小テスト、課題提出状況や発表等を評価のための資料とします。